

## この人に聞く：1

昔の話をもっと聞いておけば良かったと思うよ・・・

### 【飯塚健造さん（ニセコ町有島在住）】

今年の1月16日、ニセコ町有島地区の飯塚健造さんから、有島謝恩会のことや有島地区の昔のことなど、いろいろとお聞かせいただいた。

有島記念館の伊藤大介学芸員と二人でお伺いし、飯塚さんの記憶に漂う有島地区の戦後の状況について、話題は多方面に及んだ。

（5月8日に行われた有島灌漑溝の泥あげ作業の後で、原稿について確認をしていたごく機会があったので、範囲を限定して公開することにしました。）

伊藤：ニセコ町や有島地区の歴史を調べて残していきたいので、お話を聞かせていただけませんか。

飯塚：ぼくも、昔のことはあまりわからないのさ。有島さん（武郎）が農場を解放したのは、曾じいさんの佐織さんのときだったから、それから自分で4代目になるのかな。有島に入植した佐織さんの父親久次郎から数えると、5代目。久次郎さんは、宮城県からまっすぐ有島に入植したと聞いているけど、宮城のどこなのか、聞いていないんだ。向こうで何をしていたのかね。そのあと、佐織、淳（あつし）、政市、そして自分（健造さん）。有島に入ったときは小作として来たようだけど、どういういきさつで入ったか、わからないんだ。単独で入ったので、最初の頃、親戚はいなかったようだけど、淳さんの頃には、分家したり嫁に行ったりで親戚もできて、今はニセコにも何人かいるよ。父親からは、とにかく苦勞したって話は聴いているけど、ほかにあまり昔の話を聞いていなかったのさね。若いときは昔のことにあまり関心もなくて話を聞かなかったから、今にして思えば、もっと聞いとけば良かったな、って思うよ。戦後の農地解放は、祖父の代の時かな。吉川銀之丞さんは厳格な人で、年貢を払うのに大変な思いをしたって、父親はよく言った。納めきれないときは、翌年に不足分を支払わせられた、と聞いているんだけどさ。

梅田：有島武郎の農場解放のときからの農家で残っているのは、飯塚さんだけですか？

飯塚：どうだろう？新沼さんや金子さん、田中さん、亀田さんも、古い方だよ。亀田さんは2軒あってね、萬吉さんの方が古いと思うな。

梅田：『有島の里』\*<sup>1</sup>を書いた阿部信一さんは？

飯塚：阿部信一さんは、名前は聞いたことあるけど、今はこのへんにはいないし、よく分からないな。

梅田：飯塚さんは戦後生れですよ？

飯塚：ぼくは昭和22年生れで、ぼくの上に21年生れの姉がいるよ。親は軍隊に行ってる。

梅田：戦後の農地解放のとき、狩太共生農団を解団するかどうかでずいぶん議論があったようですけど\*<sup>2</sup>、何かお聞きでしたか？

飯塚：いや、戦後の農団解団時の議論というのは、知らないな。新沼さんや亀田さんは知っているかもね。

伊藤：最初の有島謝恩会館が火事で焼けた時のこと、なにか覚えてますか？

飯塚：謝恩会館が焼けたときの記憶はあるよ。小学校1年か2年のときだったな。第一発見者は、淳さんなんだ。消防がもたもたしているうちに、焼けちゃったんだよ。高校の先生が住んでいて、会館のとなりに豚を飼っていたんだ。豚のえさを煮炊きしていた火が移って延焼したんだね。朝だったな。残雪があった頃で、学校から帰ってきた頃にはもう終わっていて、焼け死んだ豚の肉を食べて慰労会しているのを見ながら帰宅した記憶がある。農場の資料を、みんなで外に出したようだよ。土壁だったので、焼失の時間を稼げたから、ほとんどの資料を外に出せたらしい。その時の謝恩会館と記念館一体の建物は、吉川銀之丞顕彰碑の右の辺りだったな。土台が今でも見えるよ。その先生は、記念館の管理人もかねて学校の先生をしていたのかな。先生を管理人にしたのは謝恩会ではないと思うし、役場でもないはずだ。そのあとの記念館は、謝恩会が全国から寄附を募って建てたものだけど、一階が集会場でコンクリート、二階が記念館で木造だった。記念館は、謝恩会が経営して入場料をもらっていた。菊地さんが会長のときだよ。吉川さんとは、ぼくも会っているんだ。吉川さんが事務所に座っていたところに、学校帰りによく寄って、あめ玉をもらったりしたな。ぼくらの代までは、金子さんや三国さんも、吉川さんに直接会っているけど、優しい人だったな。帳場さんのような形で事務所にはいたのではないかと思うよ。

伊藤：吉川銀之丞さんは、謝恩会を辞めて昭和24年に親戚のいる共和町に行って、それから息子さんがいる仙台に行って、そこで亡くなっています。息子の吉川忠雄さんは、戦時中、疎開でニセコにも来ていたようです。吉川さんが共和にいたことがあるというのは、あまり知られていないようですね。

梅田：飯塚さんの今の農地は、お父さんから譲り受けた土地のままですか？

飯塚：昭和53年に自分の代になってからは、他の人の農地を譲り受けたりして少し増えたけど、それまでは、解放されたときのまま5町歩で引き継いできましたね。5町歩で引き継いだときは、機械ではなく馬だったね。自分が中学生の頃(昭和30年代)になってから、耕耘機が入ってきた。トラクターはまだ入ってなかったね。水田2町3反、畑2町だけど、水田の代掻きを馬ですると、苗を植え終わるまで1ヶ月かかるんだ。馬は2頭いたので、交替で片方を休ませたり、並行して使ったりした。機械が入ってからは、5町歩で狭いと感じるようになったね。労働時間が短縮されたので、余った時間を使ってアルバイトにも行ったよ。作物としては、米、澱粉用じゃがいも(紅丸)、小豆、馬のえさにするデントコーンや燕麦などで、畑の半分は飼料作物なんかを作った。澱粉工場も農場内に2軒あって、有島のジャガイモ生産組合が1軒もってた。もと菊地さんの家があった所、今の記念公園の橋のたもと、四阿が建っているちょっと手前あたりに水車のある澱粉工場があったんだ。もう1軒は、向さんの左側大沼さんの家のあたりにあった。どこかの澱粉会社のものだったから、有島地区からはそこにいもを出さずに、有島ジャガイモ生産組合に出した。澱粉イモ工場が不振になって、昭和40年から50年代までは、クズイモは真狩の合理化工場に持って行ったんだ。今は、澱粉用イモを作っている成り立たないので、生食用のいもを作ってはねたものを合理化工場に持っていくようになってるけどね。

梅田：「有嶋米」というブランドが、かつてあったんですよね。

飯塚：有嶋米は、当時は有名だったんだよ。皇室に献上したときの名称だったからね。食味は良かったけど、北海道米なので全国的には決して良くはなかったはずで、なぜ献上したか、その理由はわからないな。

伊藤：有嶋米って、いつごろまであったんですか？

飯塚：ぼくらの代では記憶にないんだ。私自身は有嶋米は見たことがないし、品種も分からないし。

伊藤：飯塚さんが農業を引き継いでからは、どんな作物があるんですか。

飯塚：澱粉用から食用のジャガイモに切り替えたり、えだまめやかぼちゃ、スイートコーン、ユリ根などを作るようになったね。有島の土質は、畑には向かないと思うよ。地形も狭くて形状も良くないし、傾斜があるし、石は出るし。だから、有島さんと吉川さんが水田に切り替えたのは、正解だったと思う。今は米への収入依存度も大きいし、有島全体として水田比率は概ね維持されていると思う。少しは減っているかもしれないけど。場所が離れている田んぼは、離農しても買い手も借り手もあまりないので、条件が良くない水田は淘汰されているんだ。水田1枚ごとの面積は小さいので、うちだけでも140枚あったんだよ。それを、昭和52,3年頃になって少しずつ整備して来たけど、水田の基盤整備をしても出来むらがあって、数年間はどうしても減収傾向になる。ダメな水田は何年手を入れてもだめなんだ。切り土の水田はなかなか地力が伴っていかないけど、盛り土の水田はいいね。親の代で有島にも機械は入ったけど、親は使わなかったな。米は経費が野菜よりかからないし、反収も高いので、有島はやはり米に頼って来た。資材や農薬などの経費が、畑の方が嵩むんだ。だから、いままでは、有島は米で活かされて来た感じがする。

梅田：灌漑溝は時々修理して来たんですか？

飯塚：灌漑溝は、修理しながら使って来た。この5年間で、水環境整備事業の補助を活用して落差工の修理などして来た。5年終わって、いま新しい制度も使っているけど、補修までは出来ないんだ。斜段は、阿部さんの所が崩れて修理したことがあったなあ。斜段は石垣積んで目地にコンクリ入れて作っている。最初に作ったときから、石垣積んで表面だけコンクリというものが多く、コンクリだけの斜段はないよ。

梅田：かつて使用した支線で今は通水を止めている、という所もありますか。

飯塚：あるね。今はもう使っていない水路もあるし、支線を廃止した所もあるよ。稲作を止めた農家に引いている支線がそうだね。そんな中には、草や土で埋まっている水路もある。

梅田：灌漑溝全体の配置図のようなものって、謝恩会にはあるんですか？

飯塚：いや、灌漑溝の地図は謝恩会にはないね。

伊藤：記念館には、最初に作ったときの全体の図面がありますけど、水路だけの図面で、設計図のようなものです。地積図は入っていないんです。

梅田：記念館の図面を、謝恩会にコピー差し上げたらどうでしょうね。

飯塚：それはありがたい。欲しいな、その図面。水の取り口は羊蹄の手前であって、草刈りの出発地点になっている。そこからの水を昔は板で止めてから、草刈りするんだけど、その時の一時的な止水が大変だったらしい。今は補助事業で水門を作ったので、簡単にできるけどね。灌漑溝の本線だけは、今でも多くが現役だし地域全体でとても大事にしている。支線は、それを使っている人だけがめいめいの判断で手を入れているんだ。たとえば、三国さん、新沼さん、大野さん、向さんで使っているので、支線だけど手を入れているんだよ。支線で草刈りしているのは、あそこだけかな。

梅田：灌漑溝の草刈りの作業分担って、ずっと今のようなやり方だったんですか？

飯塚：草刈りの作業は、もとは、3、4カ所に分けて実施していたんだけど、今は人も少なくなったので、適当に分割して、自分の分担当が終わったら他に手伝いにいくようにしているのさ。しかし、実際の人配分にはいろいろと苦労している。上（上流方面）は人数多いけど、下が人数少なくて大変なんだ。ニセコ駅に行く方にも、金子さんの家の前通って、3カ所から行っている。それは支線なので、斜段を設置していないから、落差が大きくて水はスッと流れて、泥上げなどはあまり苦労しないかな。でも逆に、水の勢いがあるから、溝を掘ってしまって、それはそれで大変なんだ。傾斜が緩やかな支線も泥がたまるので、それも大変だけだね。

梅田：弥照神社の祭壇って、二つありますよね。正面に向かって右側にあるのは、水神さんですか？それと、正面の祭壇の向こうの窓を開けて祝詞あげますけど、窓の向こうにあるのは、社日さんですか？

飯塚：そう。神社の祭壇の一つが水神さんで、ずっと前から二つあったね。灌漑溝のためだと思うけど、祭壇の向こうの窓の向こうに社日さん（六角形の碑）がある。この社日さんは、以前は宮山にあったと思うけど、神社と一緒に碑も持って来たんじゃないかな。お祭りのときは、碑の周りの草は刈るけど、特段飾ったりはしない。

伊藤：神社は、今の場所に移してからは、変わっていないんですか。

飯塚：神社の建物は途中で一度、土台替えして、奥行きを1間ぐらい縮小しているのさ。建物の基本は前のままだけど、土台を変え、床板を張り変えているね。謝恩会で寄附集めて直したんだけど、山森さんという人が大工さんだったので、直してくれたんだよ。その時の寄付者の名札が、正面向かって右側のもの。向かって左にかけてある名札は、神社をここに移したときの寄附者の名簿だけど、自分も分からない人の名前がかなりあるということは、人はずいぶん異動したということだろうね。右の方の名前はかなりわかるよ。うちの場合は佐織さんの名前だったような気がする。共生農団のときの人の異動に関する資料は、謝恩会では持ってないな。

梅田：生活の日用品なんかは、どんな風にして入手していたんですか？

飯塚：町まで出て買うのはそんなに遠くないから、買い物は不便ではなかったと思う。

梅田：王子製紙発電所が近いですけど、おつきあいはあったのですか？

飯塚：いま聞かれるまですっかり忘れていたけど、いろいろ思い出した。王子発電所との付き合いはあったね。お盆のときは、王子発電所のなかで映画を上映したりしてにぎやかだったので、有島から大人も子どもも観に行ったなあ。自分も行った記憶がある。三浦さんという人がいてね、どういう関係だったのかわからないけど、そこのお宅にお邪魔してお茶やお菓子などごちそうになったよ。自分たちより少し敷居が高い感じはしたけど、とても楽しかった記憶があるなあ。王子発電所の催しは、クチコミで伝わってくるけど、毎年のことだからみんなわかっていて、楽しみにしていた。

伊藤：有島に電気がついた時のことって、覚えていますか？

飯塚：電気が有島に引かれたのは、自分が小さいときだったけど、電線を家の中に引き込む工事したときの記憶が残っているよ。裸電球ね。それまではランプだったし、暗かった家の中がぱっと明るくなったからね。

梅田：その時の電気は、王子からだったんですか？



飯塚：いや、電気は北電からのもので、王子からのものではないよ。だけど、王子から電気を引っ張った家も、有島に何軒かあった、と聞いているから、近くて付き合いが何かあったのかな？

伊藤：飯塚さんが子どもの頃って、どんなことをして遊んだのですか？

飯塚：子どもの頃は、冬は、山の中で樹木をポールにしてスキーで遊んだよ。冬はそれしか遊べるところってなかったからね。夏は、灌漑溝で遊んだ。水路を自分たちで板なんか使ってせき止めて、その中で泳いだんだけど、水が冷たかったなあ。遊び終わったらせきを外して、畑や田んぼの畦で遊んだりしたね。あとは、庭先でボール投げとかね。駅の上の映画館にも行った。今で言えば、信号の左側の小高い所に映画館があったんだよ。氏家さんが経営していたんだけど、映画は唯一の娯楽だったからね。映画の宣伝カーも、町中を回っていた。

梅田：新沼さんのお宅の近くに競馬場があった、って聞いていますけど。

飯塚：競馬場は新沼さんの裏にあったということは聞いているけど、自分は直接見たことはないんだ。農家はどこでも馬を飼っていたので、競馬に参加する人も多くて、みんな楽しんだし、競走に勝つと自慢したようだ。自分の父親も競馬に出たかどうか、聞かずに済みだったけどね。

梅田：みなさんの寄り合いなどで、昔のことが話題になることもあるんですか？

飯塚：寄り合いでは、昔のことはあまり話題にならないね。せいぜい親の代の話くらいかな。昔の話を知っているのは、新沼さん、亀田万吉さんだね。三国さんは、ぼくより2、3歳上。あと、田中さん（ハイツの向かい、志田建設の手前）はおじいちゃんが2、3年前までは元気だったので、ひょっとしたら知っているかもしれない。打田さんは、もとキノオカに居て、その後有島に移って来た人だよ。戦後だったと思うな。

伊藤：飯塚さんのお父さんは、有島武郎と会っているんですか？

飯塚：父親の政市は大正8年生れたから、会っていても記憶はなかったと思う。

伊藤：謝恩会館が寄附で建てられたときの完成落成式の写真が記念館にもありますが、飯塚さんは写っていますか？

飯塚：はっきりした記憶はないけど、写っていないと思うなあ。

伊藤：今の謝恩会館は、菊地さんの所有地に建っているんですか？

飯塚：菊地さんの土地と謝恩会の土地もあって、そこに今の記念館が建っているんだけど、二階建ての謝恩会館は謝恩会の土地に建てた。いま有島さんの銅像が建っている辺り。

伊藤：もとの事務所の土地は、そのあと、誰の土地になったんですか？

飯塚：ぼくは、わからないんだ。亀田さんに聞いた方がいいよ。事務所の向側は、内地の人が買い取っていると思う。事務所跡のいま駐車場になっている場所は、亀田さんの畑があった土地で、葡萄を栽培していた。今の謝恩会館が建っている土地は、町の土地。謝恩会の土地を町に譲るときに、謝恩会館を立てさせてもらうことを条件にしたんじゃないかな。

伊藤：有島農場地区にストーンサークルがあったと言う話を、ある人から聞いたことあるけど、そんな話はありますか？

飯塚：それは、聞いたことがないね。もしそうだとしたら、ちょっと厄介なことになりかねないなあ。

梅田：国営の基盤整備事業が進んでいますけど、有島の農家の人たちはどのように対応するんですか？

飯塚：基盤整備については、自分はもう何年も農業出来ないんで、借りる人がいてその人が基盤整備に出資してもいいという人がいるなら貸してもいいけど、そんな人がいるとは思えない。亀田さんは参加すると言っているけど、対象の土地はそんなに広くないので、持ち出しは多額ではないかもしれないけど、自分の土地は少し広いので、負担が大きいだろうから、迷っているんだ。基盤整備している間は、農作物を作れないしさ。

梅田：桐山さんも昔のこと詳しくとお聞きしていましたが、お亡くなりになったんでしょう？

飯塚：桐山さんは2年前の8月に亡くなったけど、有島さんのことなど知っている最高齢者だったね。90歳を超えていた。残念だよ。

伊藤：昭和30年代とか40年代の話も今はもう貴重ですから、他にも思い出したら、またいろいろと聞かせてください。きょうは、どうもありがとうございました。

※ 注1 『有島の里』：阿部信一著（昭和53年4月発行）

※ 注2 狩太共生農団解団に関する議論：昭和23年6月6日の村農地委員会主催で共生農団の農地改革是非に関する懇談会。（『新訂有島武郎研究—農場解放の理想と現実』高山亮二著（昭和47年）より）

（話し手：飯塚健造さん / 聞き手：伊藤大介さん・梅田滋 / 文責：梅田）

2014年5月10日 18:05